

番号	2017-2018共通_Q42
出題	Q42. 全身麻酔下での実施が要求されている採血方法はどれか。 1. ラットにおける頸静脈からの採血 2. ウサギにおける耳介周囲静脈からの採血 3. ラットにおける舌下静脈からの採血 4. マウスにおける眼窩静脈叢からの採血 5. マウスにおける外側尾静脈からの採血
正答	正答は3および4とする。
提案	正答は4として問題を作成したが、問題印刷後に試験問題作成委員会内で3も正答であると意見が出た。委員会内で審議した結果、3と4の両方を正答とすることにした。
資料	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学(朝倉書店) p25

番号	2017-2018各論A_Q2
出題	Q2. ラットの解剖学的特徴に関する記述で誤っているものはどれか。 1. 重複子宮を持ち、中心着床である。 2. 肝臓は5葉からなり、胆嚢も方形葉も欠く。 3. 腸管の長さは、体長の約9倍である。 4. 一生の間に歯の生え換わりが見られない不換性歯を持つ。 5. 乳頭数は左右7対である。
正答	正答は1および5とする。
コメント	現代実験動物学 p121の図7.17では、ラットの乳頭数は6対である。
提案	選択肢1の内容は誤りであり(正しい内容: 重複子宮を持ち、偏心着床である)、選択肢5も誤りである(正しい内容: 乳頭数は左右6対である)。従って、正答は1および5とする。
資料	現代実験動物学 初版(朝倉書店) p121

番号	2017-2018各論B_Q6
出題	Q6. カニクイザルの特徴に関する記述で誤っているものはどれか。 1. 東南アジアに生息し、旧世界ザルに属する。 2. 飼育下の寿命は10～15年である。 3. 月経血がみられ、季節繁殖する。 4. 平均妊娠期間は164日である。 5. ビタミンCの補給が必須である。
正答	正答は2および3とする。
コメント	実験動物学のp124には、季節繁殖性を持たず、通年繁殖すると記載されている。
提案	選択肢2の内容は誤りであり(正しい内容: 飼育下の寿命は25～30年である)、選択肢3も誤りである(正しい内容: 月経血がみられ、通年繁殖する)。従って、正答は2および3とする。
資料	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学(朝倉書店) p124

番号	2017-2018各論B_Q7
出題	Q7. コモンマーモセットの特徴に関する記述で誤っているものはどれか。 1. 雑食性、昼行性で、地上生活を営む。 2. 雌雄とも生殖器などのこすりつけや尿によるマーキングを行う。 3. 新生子は間性(freemartin)にはならない。 4. Epstein-Barr (EB)ウイルスに対して感受性がある。 5. 1年に1回出産し、1回の出産で3～5匹を生む。
正答	正答は1および5とする。
コメント	実験動物学のp124には、樹上生活を営むと記載されている。
提案	選択肢1の内容は誤りであり(正しい内容：樹上生活を営む)、選択肢5も誤りである(正しい内容：1年に2回出産し、1回の出産で2～3匹を生む)。従って、正答は1および5とする。
資料	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学(朝倉書店) p124、小さくて頼もしいモデル動物(羊土社) p133

番号	2017-2018各論B_BQ9
出題	Q9. 食道に関する記述で誤っているものはどれか。 1. 食道の粘膜上皮は重層扁平上皮で、角化層はイヌやネコでよく発達している。 2. 粘膜筋板はネコ及びイヌでは食道全長にある。 3. 固有食道腺はブタでは食道の吻側1/2に、イヌでは全長に分布する。 4. ブタでは食道腺の周りにリンパ小節やリンパ浸潤が発達する。 5. 食道腺の終末部は主に粘液細胞で構成され、ブタは漿液半月も存在する。
正答	正答は1および2とする。
コメント	家畜比較解剖図説のp226には、「粘膜筋板は犬では後位で現われる。」と記載されている。
提案	獣医組織学 第6版(学窓社)には「粘膜筋板は、～ネコおよびイヌでは食道全長にあるが、～」と記載されており、これを参考に問題作成を行った。しかし、家畜比較解剖図説には「粘膜筋板は犬では後位で現われる。」と記載されており、第142回日本獣医学会学術集会以「イヌの食道における粘膜筋板の形態学的研究」という演題発表があり、要旨集には「粘膜筋板は食道起始部では認められなかった」と記載されている。従って、選択肢2の内容は誤りとする。選択肢1の内容も誤りであり(正しい内容：イヌやネコでは角化層はほとんどない)、正答は1および2とする。
資料	家畜比較解剖図説 上巻 第2版(養賢堂) p226、獣医組織学 第6版(学窓社. 2014) p153 第142回日本獣医学会学術集会講演要旨集、A-49(p39)

番号	2017-2018各論B_BQ10
出題	<p>Q10. イヌの肉球に関する記述で誤っているものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前肢では手根球、掌球、指球が見られる。</li> <li>2. 後肢では足根球、足底球、趾球が見られる。</li> <li>3. 肉球表皮は着地により厚くなり、特に角質層は成体で発達する。</li> <li>4. 肉球の真皮や皮下組織には触覚小体、層板小体、ルフィニ小体などの分布が多い。</li> <li>5. 肉球は表皮、真皮および皮下組織からなり、被毛がある。</li> </ol>
正答	正答は2および5とする。
コメント	選択肢2に記載されている「足根球」というものの有無や名称は確かなものであろうか。足根球と記載されている文献を確認できていないが、家畜比較解剖図説 下巻 第2版(養賢堂) p316の犬の肉球の説明部分には、足根球についての記載はない。
提案	獣医解剖・組織・発生学(学窓社, 2012)に足根球に関する記載があるが、イヌ・ネコでは足根球が消失していると解釈できる部分がある。また帯広畜産大学の佐々木基樹先生のHPには、イヌ、ネコには足根球はないと記載されている。従って、イヌでは足根球がないことが正しい内容であり、選択肢2は誤りとする。選択肢5も誤りであり(正しい内容: 肉球は毛を欠く)、正答は2および5とする。
資料	獣医解剖・組織・発生学(学窓社, 2012)のp179、家畜比較解剖図説 下巻 第2版(養賢堂) p316、 帯広畜産大学の佐々木基樹先生のHP( <a href="http://www.doc88.com/p-985701567240.html">http://www.doc88.com/p-985701567240.html</a> )に公開されているスライド16枚目